

●日本はコロナ感染の第7派を迎え、再び感染が爆発的に広がっています。パンデミック発生以来、人と人とが触れ合う機会が減りました。いかに肉体的に離れていながら、霊的につながり合うことができるかということ、教会は考え、様々な働きを続けてきたと言えるでしょう。そして、たとえ離れていても霊的に励ましあう交わりを与えられてきたことを感謝いたします。

●今日の聖書はベトサイダにいた一人の盲人にイエス様が直接触れられ、彼を癒されたというお話です。当時目の見えない人々は、社会から阻害されていました。特にユダヤの社会ではそのような障がいを持っている人は神から呪われた存在とされていたので、当時のユダヤの掟を厳格に守る人々は決して彼らに触れることはありませんでした。この盲人は沢山の人が集うベトサイダの街で、人間の尊厳を奪われて、生きていたのだと想像できます。それは心の痛みよりも更に深い、命の根源を揺るがす「魂の痛み(スピリチュアルペイン)」を持っていたのです。

今日の癒しのお話はイエス様が段階的に癒しておられるという点でとてもユニークです。イエス様はその人間の心の奥にある魂の痛みに触れられたこと、そして、ただ肉の目を開かれただけではなく、霊的にその目が開かれたということを伝えているのではないのでしょうか。

●またマルコは、この盲人の目が段階的に開かれたということと重ねて、イエスの弟子たちや当時の人々の霊的な目も段階的に開かれていったのだということを示唆しているのです。今日の話の直後でペトロは「イエス様こそがメシアだ」と告白していますが、マルコは、それはまだ開眼のファーストステージだと告げているのです。ペトロはじめ、弟子たちが本当の意味でイエス様に触れられ、霊的な目が開かれるセカンドステージは十字架の死と復活の出来事の後だったのです。

●私たちもいくらイエス様がすごい奇跡をされたメシアだという話を聞いても、それが私たちを生かす強い力にはなり得ません。あのイエス様の十字架が他ならぬ「私」のためであり、「私のために」イエス様が命を捧げてくださったのだという、その愛に触れることによってこそ私たちは生きる意味と力を与えられるのです。今の時代、直接イエス様に触れていただくことはできませんが、それでもなお教会を通して、また私たちの宣教を通して、深く私たちの魂に触れるイエス様の愛と出会えることを共に信じ、励んでまいりましょう。